独立行政法人教員研修センター

平成 22 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

平成 22 年度

初等中等教育から高等教育に向けた
継続的キャリア教育指導者養成研修プログラムの開発

―社会的自立・職業的自立に必要な基盤能力の育成のために―

報　告　書

平成 23 年 3 月

公立大学法人　大阪府立大学

目　次

プログラム名とその特徴

プログラムの全体概要

Ⅰ　開発の目的・方法・組織

１　開発の目的

２　開発の方法

３　開発の組織

Ⅱ　開発の実際とその成果

１　開発の実際

（１）教育センター研修プログラムの内容

① 研修の背景やねらい

② 対象、人数、期間、会場、日程、講師

③ 各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

④ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

⑤ 実施上の留意事項

（２）教育センター研修プログラムの評価

① 研修の評価方法、評価結果

② 研修実施上の課題

２　実証研修の実践と成果

（１）実証研修プログラムについて

① 実証研修の概要

② 実証研修におけるキャリア教育プログラムの提案

③ 実際に実施したキャリア教育プログラム

（２）効果測定

① 南大阪地域大学コンソーシアムの効果測定システムを活用した効果の測定

② ワークシートに生徒が記述した項目

（３）学生サポーターの授業参加

Ⅲ　連携協力による研修についての考察

１　連携の成果（メリット）と課題

２　地域協議会からの提言－研修の評価及び改善

３　事業の成果

Ⅳ　その他

Ⅴ　参考資料

１　地域協議会設置要綱

２　地域協議会の記録

Ⅵ　「キーワード」「人数規模」「研修日数（回数）」

（独立行政法人教員研修センター委嘱事業）

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報　告　書

プログラム名	初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修プログラムの開発―社会的自立・職業的自立に必要な基盤能力の育成のために―
プログラムの特徴	１．本学が有する専門性やリソースを活用して、大阪府教育センターが平成 21 年度に「コンソーシアム」と連携して実施した教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの成果を発展・充実させ、地域及び初等中等教育と高等教育とをつなぐキャリア教育指導教員及びキャリア教育学生サポーターを育成するプログラムを開発する。 ２．本学のｅラーニングシステムを活用して、開発したプログラムの普及を図るとともに、大阪府教育センター附属研究学校等で実践、評価を行う。 ３．「コンソーシアム」の効果検証システムを改良し、「基礎的・汎用的能力」の育成について、教員研修及び大阪府教育センター附属研究学校等での実践終了後には効果測定を行う。 ４．本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局、大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員によって構成される連携協議会を開催し、研修プログラム等の評価・改善を行う。

平成 23 年 3 月

機関名　公立大学法人　大阪府立大学
連携先　大阪府教育センター

プログラムの全体概要

１．事業の全体概要

（１）初等中等教育から高等教育までをつなぐ体系的・総合的なキャリア教育指導者養成研修プログラムを実施

大学の有する専門性やリソースを活用し、初等中等教育から大学等の高等教育までをつなぐ体系的・総合的なキャリア教育プログラムを開発し、研究収録を作成して各校に配付するとともに、大阪府立大学及び大阪府教育センターのWeb上で公開した。

（２）キャリア教育コーディネーターの活用

研修受講者から育成したキャリア教育コーディネーターを活用し、研修成果を学校現場及び地域へ波及させるための現場実証を実施した。

（３）ｅラーニングシステムの開発

ｅラーニングシステムを開発し、本研修の情報を発信した。

（４）効果測定による評価・改善

「基礎的・汎用的能力」について「コンソーシアム」の検証システムを活用して研修効果の測定を行い、評価、改善につなげた。

２．協力体制

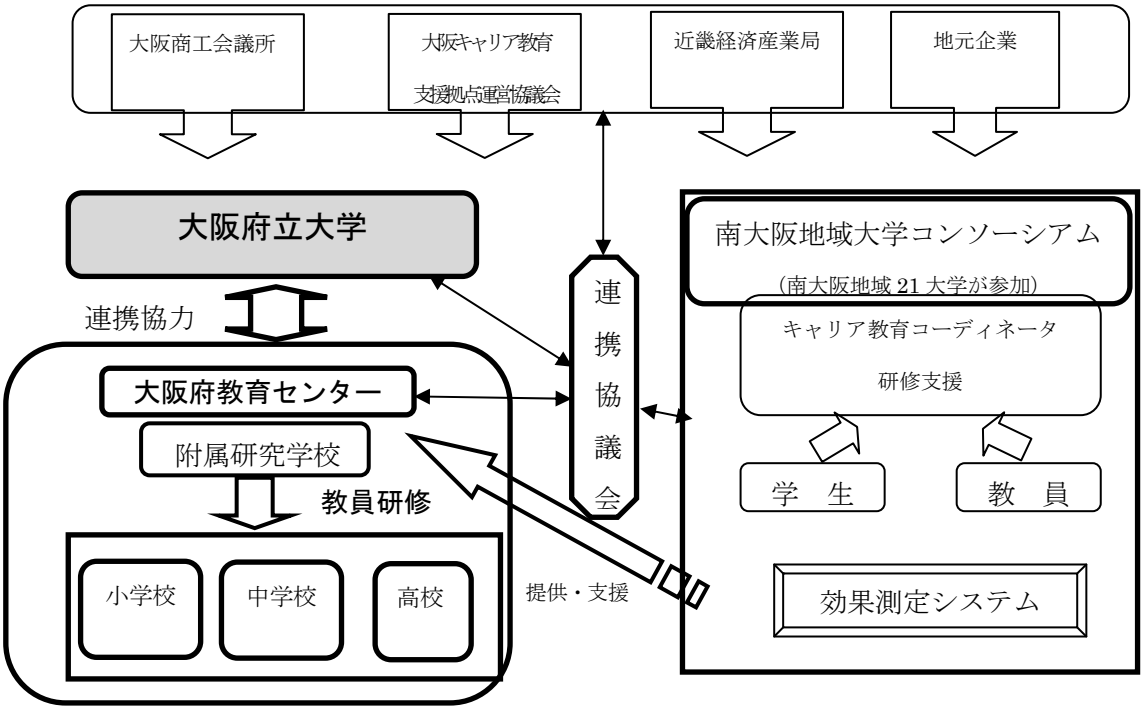
（１）体系的・総合的なキャリア教育を実践するための連携協議会の設置

大阪府立大学の他、大阪府教育センター、南大阪地域大学コンソーシアム、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員等によって構成される連携協議会を定期的に開催する。

（２）連携協議会による提言

連携協議会で意見交換を行い、研修全体の評価・次年度以降の研修の改善を行っていく。

※教員研修＆キャリア教育実践に関する連携協力体制スキーム



Ⅰ　開発の目的・方法・組織

１　開発の目的

初頭中等教育は近年、若年者を中心としたフリーターやニート（若年無業者）、早期離職者の増加等は深刻な社会問題となっており、ＰＩＳＡやＴＩＭＳＳなどの国際調査においても、日本は、諸外国に比べて、現在の学習と将来とが結びつかない中学生や高校生の割合が高いことが明らかになっている。

そうした中で、平成 11 年２月の中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（答申）において、「小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要がある」と提言されて以来、初等中等教育におけるキャリア教育の在り方については、様々な研究や事業が行われてきた。また、平成 20 年１月の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（中央教育審議会答申）の中でも、社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項としてキャリア教育が取り上げられ、閣議決定された「教育振興基本計画」では、キャリア教育の推進が強く求められている。

しかし、各学校の現状を見ると、学校での「学び」と職業を含めた「将来」との関係に気付かせ、学習意欲の向上につなげるというキャリア教育の必要性を理解しながらも、キャリア教育の定義や受け止め方が多様で、教育課程の見直しや体験活動等の取組が十分行われているとは言えない状況にある。

一方で、初等中等教育以降の高等教育段階では、「大学設置基準及び短期大学設置基準改正要綱」において、「学生が卒業後自らの資質を向上させ，社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を，教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとすること」とする設置基準の法改正を伴ったキャリア教育の導入を、平成 23 年４月１日から施行することが決定しており、キャリア教育の関心が高まっている。

大学がユニバーサル段階に達し、学生の多様化が進む中で、現在の高等教育は、様々な課題を抱えている。多くの学生にみられる課題の設定能力や解決能力の不足、社会人・職業人として必要な能力や態度の不足などはその一例である。そうした中で、本学は、幅広い視野や判断力を養い問題解決能力をはじめとした総合的な「生きる力」を育てるため、平成 17 年に、全学の教育改革を推進するうえで中心的な役割を果たす「高等教育開発センター」や、地域社会に学習の機会を提供する「エクステンション・センター」等から構成される総合教育研究機構を創設した。総合教育研究機構では、現在の高等教育が抱える諸課題を解決するには、本学の教育研究の成果を地域に還元するなど、初等中等教育と高等教育との円滑な接続が不可欠であると考えており、下記のような方針を立てて活動を推進しているところである。

・本学の有する専門性・リソースを初等中等教育に提供する。
・教員研修を通じて初等中等教育の教育プロセスを強化できるよう支援する。
・学生に対して社会的視野の育成などを通じて総合的な「生きる力」をはぐくむ。

上記をまとめ、今回本学では、大阪府教育センターと連携して、初等中等教育段階から高等教育段階へ円滑に接続できるような体系的・総合的なキャリア教育プログラムを構築するとともに、その普及のための教員研修モデルカリキュラムを開発することで合意し事業を実施した。

２　開発の方法

本研修プログラムの開発にあたっては、本学の専門性やリソースを活用し、初等中等教育段階から高等教育段階までを見据えた社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力（基礎的・汎用的能力）をはぐくむキャリア教育プログラムを開発し、大阪府教育センターと連携して「小・中・高等学校キャリア教育指導者養成研修」や児童・生徒に対する検証授業などを通じて改善・充実を図る。研修や検証授業の企画・実施等に際しては、府立大学生等をサポーターとして参画させて、学士課程段階におけるキャリア教育プログラムの一環とするとともに、初等中等教育でのキャリア教育に対するサポーター養成研修とした。プログラム開発に当たり、本学の専門性・リソースを最大限に発揮できるよう、本学が中心的役割を担っており、大学でのキャリア教育プログラムを推進している「南大阪地域大学コンソーシアム」（以下「コンソーシアム」）と協働しつつ、教員研修やキャリア教育関係機関等との連携で実績のある大阪府教育センターを事務局とする連携協議会を設置して、外部からの評価を受けながら改善・充実に努めた。さらに、２年目には、平成23年度に開校する大阪府教育センター附属研究学校等での臨床的・実践的研究を実施した。

（研修の４つの柱）

１．本学が有する専門性やリソースを活用して、大阪府教育センターが平成21年度に「コンソーシアム」と連携して実施した教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの成果を発展・充実させ、地域及び初等中等教育と高等教育とをつなぐキャリア教育指導教員及びキャリア教育学生サポーターを育成するプログラムを開発する。

２．本学のｅラーニングシステムを活用して、開発したプログラムの普及を図るとともに、大阪府教育センター附属研究学校等で実践、評価を行う。

３．「コンソーシアム」の効果検証システムを改良し、「基礎的・汎用的能力」の育成について、教員研修及び大阪府教育センター附属研究学校等での実践終了後には効果測定を行う。

４．本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局、大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員によって構成される連携協議会を開催し、研修プログラム等の評価・改善を行う。

（期待される成果）

１．初等中等教育から高等教育につながる体系的・総合的なキャリア教育プログラムの開発
２．キャリア教育指導教員及びキャリア教育学生サポーターの育成
３．大阪府教育センター附属研究学校等を活用した本研修成果の学校現場及び地域への普及
４．教員研修や学校での実践についての効果測定の検証
５．ｅラーニングを活用しての開発プログラムの普及
６．連携協議会による研修評価及び改善システムの確立

３　開発の組織

（１）大阪府立大学

大阪府立大学の組織と実績は下記のとおり。

①これまでの連携実績
　本学は長年にわたり、科学技術や理科に関する研修を中心に、本学が有する専門性やリソースを活用して、大阪府の理数系教員の指導力向上を図ってきた。また、キャリア教育指導者養成研修等を通じて、本学が加盟する「コンソーシアム」とも連携しており、「コンソーシアム」を仲介しての関係強化も図っている。現在、大阪府教育センター附属研究学校との連携を協議している。

②キャリア教育に関する連携の経緯
　小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修の受講者は約50名で、研修の目的合致度や充実度、職場での活用度等の研修評価は非常に高かった。実施に当たっては、「コンソーシアム」をはじめ、大阪府商工会議所、大阪府キャリア教育支援拠点運営協議会、近畿経済産業局、大学教員、教員からなる地域協議会を設置して、学校現場ですぐに活用できる研修内容を企画・立案し、研修の効果測定を行った。５回にわたり開催した地域協議会では、次年度以降さらに充実したキャリア教育研修を実施していくためには、「コンソーシアム」だけでなく、「大阪府立大学の専門性やリソースを初等中等教育段階で活用していく必要がある」との改善意見が出された。

（２）大阪府教育センター

大阪府教育センターの組織と実績は下記のとおり。

①社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむ授業づくり研究
　本教育センターは、平成19年度には課題解決型授業づくり研修、平成20年度には小学校・中学校・高等学校「活用力・探究力をはぐくむ授業づくり」研修を実施するなど、児童生徒が社会的自立･職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむ授業づくりを研究してきた。また、平成17年度より「コンソーシアム」が取り組んでいるキャリア教育推進事業及びキャリア教育コーディネータ育成事業にも参加してきた。

②平成21年度小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修

平成21年度には、「コンソーシアム」と連携して実施した小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修が、平成21年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの教育委員会と関係機関の連携による研修カリキュラム開発事業に採択された。

＜研修の目的＞

・「コンソーシアム」と連携し、地域連携型のキャリア教育コーディネータ養成研修プログラム（実証研修）を実施することによって、キャリア教育コーディネータを活用した実践の構築と、地域及び各学校におけるキャリア教育担当教員の育成をめざす。

・また、Web上で情報公開し、教育委員会や学校、教員などだれでも利用できる「コンソーシアム」の検証システムを活用して、本研修の効果を測定する。

＜研修の対象者＞

小学校、中学校、府立高等学校及び府立支援学校（小学部、中学部、高等部）におけるキャリア教育担当または担当予定の教職員（小学校20名、中学校20名、高等学校20名）

＜研修カリキュラムの開発に当たっての工夫・留意点＞

・研修の企画・実施及び評価・改善するために、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会等によって構成される地域協議会を設置したこと。

・研修を実施するだけでなく、研修受講者が大阪府教育センター及び連携先の「コンソーシアム」の支援をうけて、キャリア教育に関する授業実践を行ったこと。

・Web上で、教育委員会や学校、教員などだれでも利用できる「コンソーシアム」の検証システムを活用して本研修の効果を測定すること。

＜研修の作成教材等＞

・平成21年度小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成研修」－社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむ－のホームページ作成
（http://www.osaka-unicon.org/career_leader/）

・研修全体及び実証研修のＤＶＤ教材の作成（平成22年3月）

・演習用資料の作成（平成22年3月）

・研修の報告書の作成（平成22年3月）

③大阪府教育センター附属研究学校における実証研修

大阪府教育センター附属研究学校は、大阪の次代を担い得る人材の育成を念頭に、大阪の教育課題の解決に資する「ナビゲーションスクール」として平成23年4月に開校予定である。「ナビゲーションスクール」とは、大阪府全体の教育力の向上に資するよう、さまざまな実践･研究を展開し､大阪の教育課題解決のモデルとなるナビゲーター的な役割を果たす学校である。また、生徒の特性に応じてその可能性を最大限伸ばす研究学校として、社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむキャリア教育を実践する予定であるが、平成22年度は、大阪府教育センター附属研究学校の母体となる大阪府立大和川高等学校で先行して実践したい。

（３）南大阪地域大学コンソーシアム

「コンソーシアム」の組織と実績は下記のとおり。

①地域の産学官連携の推進、学術機能の向上の拠点として、平成１４年に設立

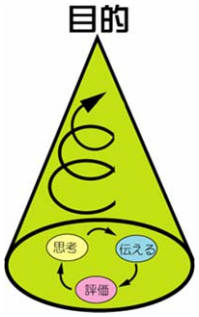
「コンソーシアム」とは、地域の産学官連携の推進、学術機能の向上の拠点として大学連携を推進するために、平成14年に設立された組織である。現在下記大学を会員大学として有しており、大阪府立大学が幹事大学である。2009年度末時点23大学・短期大学部・高等専門学校（以下では、校と記す）が加盟している。会員大学および個人会員は下記の通り。

南大阪地域大学コンソーシアムの会員大学および個人会員

団体会員 大阪大谷大学、大阪大谷大学短期大学部、大阪芸術大学、大阪女子短期大学、大阪府立大学※、大阪夕陽丘学園短期大学、帝塚山学院大学、羽衣国際大学、プール学院大学、プール学院大学短期大学部、桃山学院大学、和歌山大学、清風情報工科学院、近畿大学生物理工学部 ※大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学は、平成 17 年 4 月から大阪府立大学に再編統合。
個人会員※ 大阪観光大学、大阪教育大学、大阪健康福祉短期大学、大阪千代田短期大学、大阪市立大学、関西福祉科学大学、近畿大学医学部、太成学院大学、阪南大学 ※個人会員とは、個人の教員が会員として加盟している大学のこと。

②小学校から大学まで一貫してキャリア教育プログラムを推進

「コンソーシアム」では、特に、学生の活動支援を主眼とした事業を展開し、地域の若者の人間基礎力向上を目指した教育プログラムの実施について実績がある。具体的には、平成 16 年度に企業･行政の有する課題を学生プロジェクトチームが解決する｢学生クラブ･アクト事業｣が立ち上がり、平成 17 年度より経済産業省地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクトに採択を受けるなど、地域の小学校から大学まで一貫したキャリア教育を推進してきている。



「コンソーシアム」のキャリア教育プログラムの特徴は、人間基礎力の育成を大目標として設定し、具体的な力としてＰＤＣＡを構造化したものとして定義される｢思考リテラシー｣の獲得をめざすことにある。本目標は、企業からミッション（課題）を与えられ、チームで与えられた課題を解決するプロセスを通して、解のない課題に対してどのようにすれば解決できるのかを経験できるキャリア教育プログラムを通して育成される。本プログラムは、毎年約 10 学校（小学校から高等学校まで）、および複数の大学において実施されている。

また、先述のとおり、平成21年度には、大阪府教育センターと連携して小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修を実施した。本研修は、大阪府下の小学校・中学校・高等学校において、キャリア教育の更なる普及をめざしたものである。本年度は昨年度の成果に本学が加わることで、今後も持続可能な「教員研修モデルカリキュラムづくり」をめざす。

Ⅱ　開発の実際とその成果

１　開発の実際

（１）教育センター研修プログラムの内容

①　研修の背景やねらい

（背景）

「Ⅰ開発の目的・方法・組織」「１開発の目的」で記載の通り、現在の高等教育が抱える諸課題を解決するには、本学が有する専門性やリソース、教育研究の成果を地域に還元するなど、初等中等教育と高等教育との円滑な接続が不可欠であると考えている。そこで、本学が有する専門性やリソースを初等中等教育に活用し、本学の研究成果を地域に還元するため、大阪府教育センターと連携し、初等中等教育から高等教育とを円滑につなぐキャリア教育指導者養成研修を実施して初等中等教育の教育プロセスを強化することとした。

（研修の４つの柱）

１　地域及び初等中等教育と高等教育とをつなぐキャリア教育指導教員及びキャリア教育学生サポーターを育成する。

２　本学のｅラーニングシステムを活用して、ｅラーニングコンテンツを作成し、本年度の研修内容をＷｅｂ上に公開し、開発したプログラムの普及を図る。また、次年度以降の教員研修及び大阪府教育センター附属高等学校等、学校におけるキャリア教育の推進に反映させることができるシステムを構築し、開発したプログラムの評価・改善を図る。

３　「コンソーシアム」の効果検証システムを改良し、教員研修及び大阪府立大和川高等学校等での実践終了後に、「基礎的・汎用的能力」の育成について、効果測定を行う。

４　本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局、大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員によって構成される連携協議会を開催し、研修プログラム等の評価・改善を行う。

（研修の主な内容）

１　キャリア教育が求められている背景及び意義についての理解

２　校種間連携の工夫をしたキャリア教育の実践発表の事例

３　小・中・高各学校段階における、キャリア教育の推進及びカリキュラム作りのポイント

４　キャリア・カウンセリングの演習

５　キャリア教育に関する体験型学習

６　キャリア教育プログラムの作成及び実践

② 研修日程・内容等

□対象者：

小学校、中学校、府立高等学校及び府立支援学校（小学部、中学部、高等部）におけるキャリア教育担当または担当予定の教職員

（小学校 20 名、中学校 20 名、高等学校 20 名）

□日程・内容・会場・講師等

時期等	内　　容	目　　的
7/23（金）	講義「キャリア教育とは」 （内容）キャリア教育の定義について理解する。 実践発表 「小・中・高等学校におけるキャリア教育の事例発表―校種間連携の工夫―」 （内容）中学校・高等学校における先進的な取組の実践発表を行う。 パネルディスカッション 「キャリア教育の推進と連携の方策について」 （内容）府立大学、企業、教員等によるパネルディスカッションを行い、キャリア教育を支えるシステムの在り方について学ぶ。 （講師等）大阪府立大学教授　真嶋　由貴恵 大阪産業大学非常勤講師　赤松　茂 （前　株式会社デサント　企画開発室長） 南大阪地域大学コンソーシアム研究員　黒木　淳 京都市立堀川高等学校 副校長　川浪　重治 京都市立大宅中学校 教諭　森下　治樹 教諭　西本　幸史 （場所）追手門学院大阪城スクエア	校種間で連携してキャリア教育に取り組む工夫とその有効性について理解する。 各学校段階において、キャリア教育の取組を学校全体で進めるために必要な事柄について整理し理解を深める。

８/３（火）	講義・演習 「各学校段階におけるキャリア教育の推進について」 （内容）キャリア教育が求められる背景、その意義、基本方向と推進方策、条件整備について学ぶ。 （講師等）追手門学院大学教授　三川　俊樹 （場所）大阪府教育センター	前回の研修内容を振り返り、各学校段階、各地域において、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について理解する。
８/３（火）	講義・ワークショップ 「キャリア・カウンセリングの基礎」 （内容）キャリア・カウンセリングの意義と位置づけ、キャリア・カウンセリングに必要な情報提供と接し方について、演習やワークショップを通じて学ぶ。 （講師等）追手門学院大学教授　三川　俊樹 （場所）大阪府教育センター	ワークショップや研究協議等を通じて、キャリア・カウンセリングや各学校段階の進路を踏まえたキャリア教育の改善について理解を深める。
８/５（木）	講義　「キャリア教育の観点を取れ入れたカリキュラムづくりのポイント」 （内容）新学習指導要領におけるキャリア教育の位置づけ及び各学校段階に応じたキャリア教育の観点を取り入れたカリキュラムづくりのポイントについて学ぶ。 （講師等）文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター総括研究官、初等中等教育局児童生徒課　生徒指導調査官（併任）、教育課程課　教科調査官（併任） 藤田　晃之 （場所）大阪府教育センター	発達段階に応じたキャリア教育の在り方について学ぶとともに、児童・生徒の現状や身に付けさせたい能力・態度を踏まえた学習プログラムづくりのポイントについて理解する。
８/５（木）	ワークショップ 「ものづくり企画・提案プログラム―こんな〇〇欲しかってん！―」 （内容）「こんな自転車欲しかってん」などの課題解決型プログラムを通じて知識を活用する方法を学ぶ。	実際に企業で行われている商品企画と同じ方法（課題解決型プログラム）を通して、論理的思考の方法や知識を活用する方法を学

	研究協議・プレゼンテーション・講評 （内容）企画提案づくりを通して社会人基礎力を育成する方法及び効果的なプレゼンテーションの方法などを体得する。 講義「キャリア教育プログラムの効果を測定しよう」 （内容）充実したキャリア教育プログラムの効果測定について学び、実際にキャリア教育の視点を取り入れた教科プログラムや職場体験プログラムを作成する。 （講師等）南大阪地域大学コンソーシアム 黒木　淳 松田　拓 （場所）大阪府教育センター 	ぶ。 課題解決的な思考方法を体験するとともに、効果的なプレゼンテーションの方法についても体得する。 各学校段階におけるキャリア教育の充実のためのプログラムの効果測定方法を学ぶ。 学校が抱えている課題や生徒の実態を踏まえたキャリア教育プログラムを作成することで、キャリア教育担当者としての能力を育成する。
11/18（木）	実証研修「現場における実証研修」 （内容）本研修の受講者が、学校現場でキャリア教育の授業実践を行う。 （講師等）大阪府教育センター指導主事等 （場所）大阪府立大和川高等学校 	大学・企業・学校・教育委員会・地域等と連携して、キャリア教育担当者が、学校現場にて教科の中でキャリア教育の授業実践を行う。
1/21(金)	研修の評価「地域協議会」の開催 （内容）近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪府商工部等によって構成される地域協議会を開催し、研修の評価および改善を行う。 （講師等）大阪府教育センター指導主事等 （場所）大阪府立大学 	大学・企業・学校・教育委員会・地域等が連携を図り、研修の効果測定を行うことによって、研修の評価及び次年度以降の研修の改善を図る。

③　企画、実施、評価に当たっての工夫・留意点

・本学のシステムを活用して、本研修をＷｅｂ上にｅラーニング・コンテンツとして情報発信し、次年度以降のキャリア教育指導者養成研修に活用していくこと。

・研修や検証授業の企画・実施の際には本学学生等をサポーターとして参画させることにより、学士課程段階におけるキャリア教育プログラムの一環になるようにする。研修カリキュラム全体を通して、小学生・中学生・高校生、大学生のキャリア発達を促すしかけや内容を含むようにする。

・パネルディスカッションの際には、受講者と双方向のやりとりができるような方策を取り入れる。

・研修受講者が大阪府立大学、大阪府教育センター、南大阪地域大学コンソーシアムの支援を受けて、キャリア教育に関する授業実践を行う。

・「振り返り講座」の開催：本研修及び現場実習に関する自己評価、実習結果について振り返り、研修カリキュラムを改善していく。

・平成21年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムの成果の一つである「コンソーシアム」の検証システムを活用して、「基礎的・汎用的能力」について、本研修及び大阪府立大和川高等学校等での実証研修の効果測定を行う。

・本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局、大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員によって構成される連携協議会を開催し、本研修の評価及び改善を行う。

（２）教育センター研修プログラムの評価

①　研修の評価方法、評価結果

「キャリア教育指導者養成」研修終了直後及び５か月後に、研修受講者にアンケートを実施し、本研修の地域及び校内における活用状況を調査した。

Ａ　研修終了直後の本研修に対する受講者の評価

※小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修の受講者アンケートより作成

※アンケートの回答総数　34 名

（小学校９名、中学校９名、高等学校 12 名、支援学校４名）

（アンケート項目）

１　受講された研修は、あなたの期待や要望に答えていると思いますか?［目的合致度］

２　研修の内容は、理解できたと思いますか?[理解度]

３　研修の内容は、充実していたと思いますか?[充実度]

４　この研修で得たことを、今後の職務に生かすことができると思いますか[職場活用度]

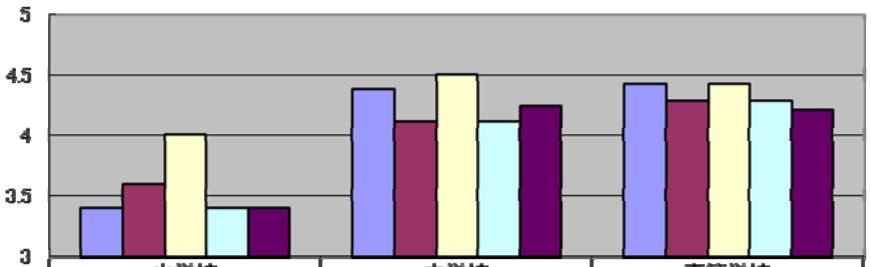
５　この研修で得たことを、あなたの職場で報告したり、広めたりしたいと思いますか?

［職場活用度］

（アンケート回答方法）

ア　とてもそう思う　イ　まあまあそう思う　ウ　あまりそう思わない　エ　全くそう思わない

小学校・中学校・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修アンケート集計結果



	小学校	中学校	高等学校
1（目的合致度）	3.4	4.38	4.43
2（理解度）	3.8	4.12	4.29
3（充実度）	4	4.5	4.43
4（個人活用度）	3.4	4.12	4.29
5（職場活用度）	3.4	4.25	4.21

1（目的合致度）　2（理解度）　3（充実度）　4（個人活用度）　5（職場活用度）

※アンケート集計結果は、「とてもそう思う」を５、「まあまあそう思う」を４、「あまりそう思わない」を３、「全くそう思わない」を２として加重平均したものである。

Ｂ　上記アンケート及び受講者の自由記述からの分析

・就職や進学など将来に直結する上級学校ほど、キャリア教育研修に対する期待度が高い。

・本研修は、キャリア教育が求められている背景及び意義、校種間連携の工夫をしたキャリア教育の実践発表、キャリア教育の推進に向けたカリキュラム作りのポイント、キャリア・カウンセリング、企画・提案型のキャリア教育の体験、キャリア教育のプログラム作りを主な内容としている。研修内容は充実しており高い満足度を得たことが伺える。

・研修理解度と研修充実度は小・中・高とも評価が高い。パネルディスカッションや企画・提案型の授業、キャリア・カウンセリングの演習を通して、キャリア教育の推進について具体的なイメージが持てるようになり、キャリア教育の意義や大切さについての理解が進んだものと思われる。

・学校種ごとに比較すると、全ての項目に対して、小学校の評価が低い。今年度の研修では、パネルディスカッションに中高が連携した事例を取り上げたことにもよると考えられる。次年度以降の研修では、各校種の発達の段階に合わせた研修内容の工夫が望まれる。

［自由記述から見えてくる学校現場のニーズ］

□本研修の良かった点

〇キャリア教育の推進は非常に大切であることが理解できた

・キャリア教育は、学ぶ意欲の育成につながる

・キャリア教育は、教育の根幹である

・キャリア教育は、生きるための教育である

〇キャリア教育について、具体的にイメージがもてるようになった

・進め方がわかった

・日々の活動がキャリア教育につながる、キャリア教育は特別なものではない

・キャリア・カウンセリングのポイント、キャリア教育の方向性が理解できた

〇企画・提案型のワークショップを体験して、キャリア教育のひとつの展開のしかたや手法がわかった

・人と意見を交流しながら、自分の考えが深まっていく過程はおもしろい

・ものごとを論理的に分析していく過程がよくわかった

・この手法の教科の中での活かし方を考えていきたい

□本研修に対する要望

〇今回の研修の内容や資料を E-ラーニングとして、いつでもデジタルデータの形で取り出せ、活用できるようにしてもらいたい

〇どのようにキャリア教育を普及していったらいいのか、授業展開やプログラムの具体例をもっと取り上げて欲しい

〇ワークショッププログラムとキャリア教育との関連、各校種への落とし込みなど、より具体的な話が聞きたい

〇企業の方、異業種の方のお話をもっと聞きたい

Ｃ　地域及び校内における本研修の活用状況

アンケート回収数 31 名

（内訳）小学校…９、中学校…７、高等学校…11、支援学校…４

□問１　本研修終了後の、研修成果を活用しましたか。

	小学校	中学校	高等学校	支援学校	合計（名）
活用した	5	5	9	2	21
活用していない	4	2	2	2	10

□問２　学校でどのように研修成果を活用しましたか。＜複数回答可＞

※　問１で「活用した」と回答した研修受講者のみ回答

	小学校	中学校	高等学校	支援学校	合計（名）
校内研修会・報告会	1	1	3	1	5
総合的な学習の時間・	4	4	7	0	15

学級活動での活用					
各教科・科目等での活用	5	3	3	1	11
その他	1	1	1	0	5

□問３　研修成果活用にあたって、どのような点が今後の課題と考えられますか。

＜複数回答可＞

	小学校	中学校	高等学校	支援学校	合計（名）
研修内容の充実・改善を図るべき	4	1	2	0	7
教材・資料等の不足	4	3	4	1	12
相談、アドバイスを受けることのできる環境が必要	5	5	2	1	13
成果を活用する機会がない	2	0	1	1	4
その他	1	2	6	2	11

□　研修成果を活用できなかった理由、今後の改善の方向性等（自由記述）

- 教職員間にキャリア教育に対する理解が浸透していない。
- 単発の取組ではなく、カリキュラムや系統性を含めて考えていくためには、教職員間の共通理解（意識改革）が必要である。
- 研修の時期を年度末か年度始めに設定すると、校内カリキュラムにキャリア教育を組み入れやすくなる。
- 自分の中で学校現場に合うようにアレンジしていく力が不足している。また、キャリア教育にチャレンジするためには、相談しながら一緒に企画していく仲間（職場の雰囲気）が必要である。
- 研修成果を活用するまでにもう少し研修を受け、知識・理解を深め、自信を持ってキャリア教育を実践できるようにしたい。
- 障がいのある子どもたちのキャリア教育についても取り上げて欲しい。

②研修実施上の課題

「キャリア教育指導者養成」研修終了直後及び５か月後に実施した研修受講者アンケートの結果から、本研修を実施していく上で、次の４点の課題が浮かびあがる。

〔課題〕

○今年度は実践発表で中高連携の取組のみ取り上げたため、小学校の受講者の研修評価が低い結果となった。

○研修成果の活用に当たって、利用できる教材・資料が不足している。

○研修成果の活用にあたって、受講生同士が相談したり、講師等からアドバイスをうける環境が必要である。

○受講者自身のキャリア教育への理解は深まったが、教職員の間に意識にばらつきが見られ、研修成果の活用が受講者個人の努力で取り組める範囲（各教科や学級活動

での活用）に留まっている。

〔改善に向けて〕

〇各校種の発達の段階やニーズを考慮し、研修内容や実施方法を工夫していく。

・各校種の事例をバランスよく取り上げる

・小中高合同又は校種別など、研修内容や目的に応じて実施形態を工夫する。

〇すぐれた実践事例の紹介、教材・資料を提供していく。

〇演習や研究協議の場面を増やし、受講者同士が話し合い、お互いに考えを深めあえるようにする。その際、テーマや内容に応じてグループの構成に配慮し、学校種間の円滑な連携・接続を図ったり、地域ごとにネットワークが図れるように工夫する。

〇キャリア教育を学校全体で取り組む体制づくりについて、各校種ごとに具体的な取組事例を示し、普及していく。

２　実証研修の実践と成果

（１）実証研修プログラムについて

① 実証研修の概要

実証研修の概要は、下記の通り。

場　所：大阪府立大和川高等学校
授業者：指導教諭（家庭科）　宮田　早永子

＜概　　要＞

大阪の次代を担い得る人材の育成を念頭に、大阪の教育課題の解決に資する「ナビゲーションスクール」として平成 23 年 4 月に開校予定である大阪府教育センター附属研究学校の現高等学校（大阪府立大和川高等学校）において、実証研修を実施した。本実証研修は、平成 22 年度は、大阪府教育センター附属研究学校の母体となる大阪府立大和川高等学校での先行した実践として、生徒の特性に応じてその可能性を最大限伸ばす研究学校として、社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむキャリア教育を実践する。

本実証研修の特徴は、本学および「コンソーシアム」の連携のもと、社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむことを目指した次年度以降も広範に活用できる汎用的プログラムを実施する点、および家庭科という科目を「キャリア教育の視点」から科目を見直して実施する点である。上述の通り、大和川高等学校は「ナビゲーションスクール」としての機能を目指していることからも、現大和川高等学校において汎用的プログラムを実施し、より広範なプログラムの実施を可能にするために、教科科目を見直すことは重要である。

家庭科においては、「子どもの発達と保育に関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」といった到達目標を設定していた。また、本実証研修を実施する予定であった 11 月は、上記「子どもの発達と保育」に関する科目のまとめの時期であった。したがって、本実証研修では、「子どもの発達と保育」のまとめとして、社会的自立・職業的自立に必要な能力や態度をはぐくむことを目指したプログラムを実施することとした。

他方、同時に本事業は初等中等教育段階から高等教育段階へ円滑に接続できるような体系的・総合的なキャリア教育プログラムを構築することを目指している。そこで、本実証研修の企画・実施等に際しては、府立大学生等をサポーターとして参画させて、学士課程段階におけるキャリア教育プログラムの一環とするとともに、初等中等教育でのキャリア教育に対するサポーター養成研修として実施した。実施にあたっては本学だけでなく、「コンソーシアム」がこれまで開発したキャリア教育プログラムに関するノウハウを活用した。

≪実施した科目・シラバス≫

教科・科目のシラバス（保育分野）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
家庭	家庭総合	2	1年	新家庭総合　ともに生きる　くらしをつくる（教育図書）	

到達目標	子どもの発達と保育に関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
到達目標に向けての具体的なとりくみ【指導上の留意点】	子どもの発達と保育に関する事項を生活科学として理解させるとともに、生活文化とかかわらせて考えさせ、充実した生活を営むことができるようにする。

「第2章」子どもとともに

月	単元・教材名	指導事項	指導の内容
9月	1. 保育について考えよう	「育つ」「育てる」「育て合う」こと	・「育てられる」立場から、「育てる」立場への変化について ・「さらば悲しみの性」（集英社刊）河野美代子（著書）を読んで、性と責任について
		生命の誕生	・妊娠の成立 ・母子健康手帳 ・胎児の成長と母体の健康管理 ・産褥期
		高校生の妊娠・出産・育児を考える①	・映画「この愛に生きて」 （内容）アメリカが舞台で、将来に夢をもつ高校生2人が、妊娠を知る。人工妊娠中絶や養子にすすめる親に反対し、生むことを決意する。夢をあきらめなければならないことで思い悩み、周囲に助けられながら子育てをしていく。
		高校生の妊娠・出産・育児を考える②	
		（社）日本乳業協会による「ミルク教室」	・妊娠中・成長期に不足しがちなカルシウムの上手な摂取方法の講義。 ・乳製品を多く用いた調理実習「フレンチトースト・スープミルファンティ」
	2. 子どもの育ち方の特徴を知ろう	子どもの発育・発達区分	・子どもの発育・発達区分 ・子どもの発育・発達の方向性・順序性
10月		育ちゆく子どもの姿をみてみよう	・新生児期の特徴 （新生児体重減少・大泉門・小泉門・胎便・新生児黄疸・原始反射）
		からだの育ち～人生最大の成長	・乳幼児の身長・体重の増加 ・乳幼児の発育・発達の分類（運動・感覚・知能・情緒・社会性）
	3. 子どものくらしと親のかかわり	子どもの食生活①	・乳汁 （母乳・調製粉乳・母乳の長所・混合栄養）
		子どもの食生活②	・調乳実習（育児用ミルク・フォローアップミルク） ・乳幼児期のおやつの試食・果汁の試飲
		子どもの食生活③	・離乳と離乳食 ・離乳食のめやす
		子どもの衣生活	・衣服の素材・デザイン・種類 ・紙おむつの特徴
11月		子どもの遊び	・年齢と遊びの広がり ・おもちゃ等の安全性を示すマーク
		子どもの病気と事故	・病気の予防 ・事故の予防
		親がかかえる課題①	・VTR「なぜ急増、笑わない赤ちゃん」（NHK） （内容）広島県の乳児院の保育士が、預かったネグレクトの赤ちゃんと充分に接することで、赤ちゃんの様子がかわる。
		親がかかえる課題②	・児童虐待が引き起こされる原因 ・虐待の繰り返しの防止のために
	4. 子どもの福祉を考えよう	子どもが育つ環境の課題とワーク・ライフ・バランス①	・少子化対策 ・合計特殊出生率 ・子どもを生み育てやすい社会をめざして
		子どもが育つ環境の課題とワーク・ライフ・バランス②	・ワーク・ライフ・バランス （仕事と家庭の両立支援を考える）　（本時） グループワーク・プレゼンテーション
		子育て支援のまとめ	・VTR「育ち　育てる　子育ての時間」（キユーピー株式会社） （内容）子育てをひとりで背負わない、子育て仲間をつくる

＜スケジュール＞

日　　程	内　　容
7 月―8 月	・教員研修の受講（担当教諭）
9 月中	・プロジェクト参加学生（サポーター）の募集 ・プロジェクト参加学生の研修
10 月中旬	・大和川高等学校との打合せ （本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、学生）
10 月下旬	・キャリア教育プログラムの提示（「コンソーシアム」より） ・担当教諭とのプログラム打合せ （本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、学生） ・実施するキャリア教育プログラムの決定
11 月中	・キャリア教育プログラムの実施 ・効果の測定 ・振り返り
12 月中	・効果測定結果等のとりまとめ

② 実証研修におけるキャリア教育プログラムの提案

＜概　　要＞

実証研修において、担当教諭が効果的なキャリア教育プログラムを一から作成することは非常に困難であるとの認識から、これまで実績のある「コンソーシアム」が家庭科を「キャリア教育」の視点で見直したキャリア教育プログラムを提案し、社会的・職業的自立を目指した視点、および、学校現場の実態・ニーズに合わせてプログラムを改良することとした。「コンソーシアム」から提示されたプログラムは下記の通りである。

＜全体プログラム＞

日程	内容
11 月上旬 （事前学習）	（授業実践：先生）親が抱える課題① ＶＴＲ「なぜ急増、笑わない赤ちゃん」 ミッション提示： 「ワークライフバランスーあなたはどっち？ー」
11 月 18 日 （木） （現場実証当日）	午前中 3 クラス　現場実証 （授業実践：先生・大学生、公開授業） 子どもが育つ環境の課題・社会全体での子育て 「ワークライフバランス」授業の検証

＜授業内容＞

・事前学習

<table>
<tr><td>第１時間目</td><td>１１月上旬</td><td>50 分</td><td><u>1 年</u>
40 名</td></tr>
<tr><td>段階</td><td>授業目的</td><td colspan="2">つけたい力</td></tr>
<tr><td>親が抱える課題①</td><td>【親が抱える課題①】
・なぜ急増？笑わない赤ちゃん。</td><td colspan="2">情報活用能力</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="3">第１時間目

１．全体目標の確認（ミッション）　　5 分
・全体の目標
”現代の親・子どもが育つ環境の課題から、ワークライフバランスについて考え、自分なりの答えを見つける”
① 課題を掴む（ビデオを見る）
② 児童虐待の原因、広く社会の環境について知る
③ グループで議論を行い、まとめ、プレゼンを行う。

指導ポイント①　最終的なイメージを膨らませる
11 月 18 日（木）に「ワークライフバランスーあなたはどっち？－」についてグループで議論をし、公開授業の中でグループの意見を発表してもらう。
指導ポイント②　キャリア教育の授業ルールの設定
１．１００％で意見を作ることを目指す
２．目標に向かって、時間を意識する
３．チームで協力しあう
（誰か１人が欠けたら、グループの意見とは言わない）

・本日講座の目標
下記を意識して、この授業を取り組む
①課題を掴む（ビデオを見る）

２．ビデオ観賞　30 分

３．ミッションの確認　5 分
ミッション（使命）:
11 月 18 日（木）に「ワークライフバランスーあなたはどっち？－」についてグループで議論をし、公開授業の中でグループの意見を発表してもらう。

４．アンケート・振り返りシートに記入　5 分</td></tr>
</table>

※　2 時間目は、家庭総合の時間を実践（親が抱える課題②：宿題を出す“ワークライフバランスとは？”）

・現場実証当日

目的：「ワークライフバランスーあなたはどっち？ー」

内容：1時間（50分）の講座×3時間×3クラス（授業公開時間1時間）

日程：11月18日（木）１限・３限・4限

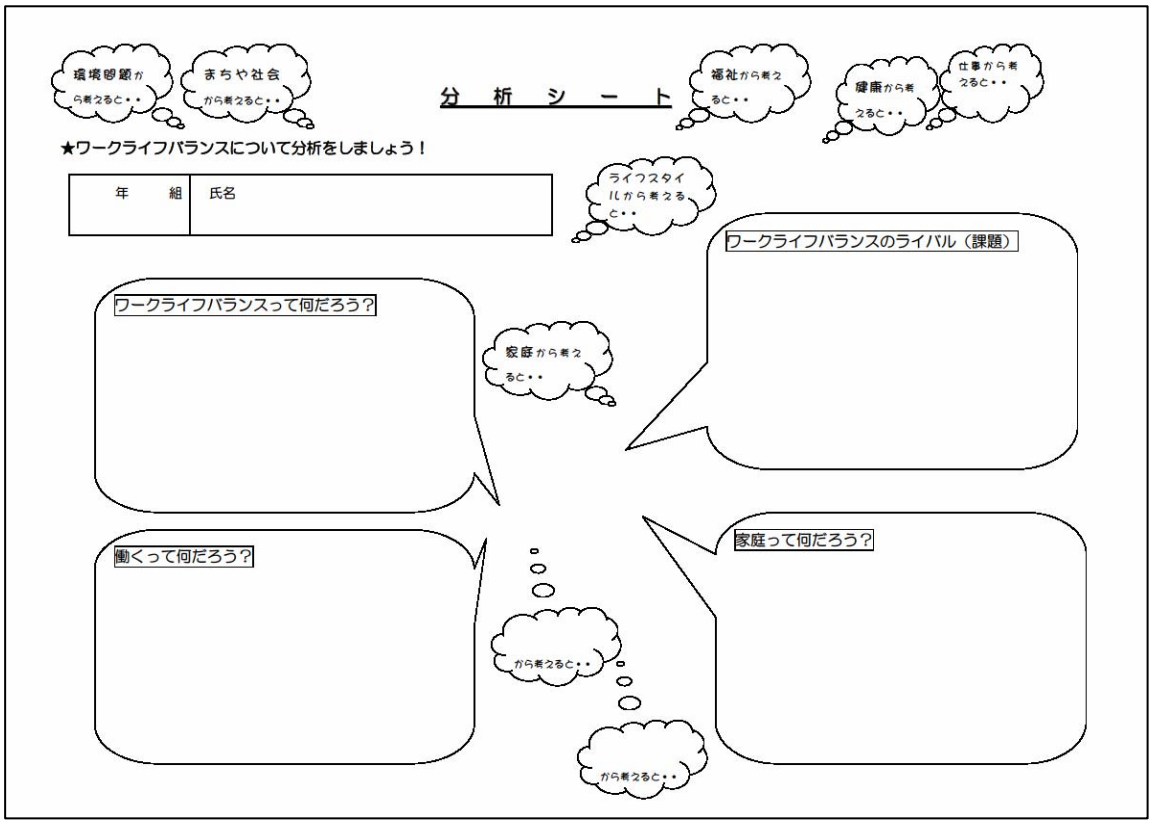
対象：大阪府立大和川高等学校　１年生 約１２０名（各クラス４０名×３クラス）

補助学生：３名（大阪府立大学3名予定）

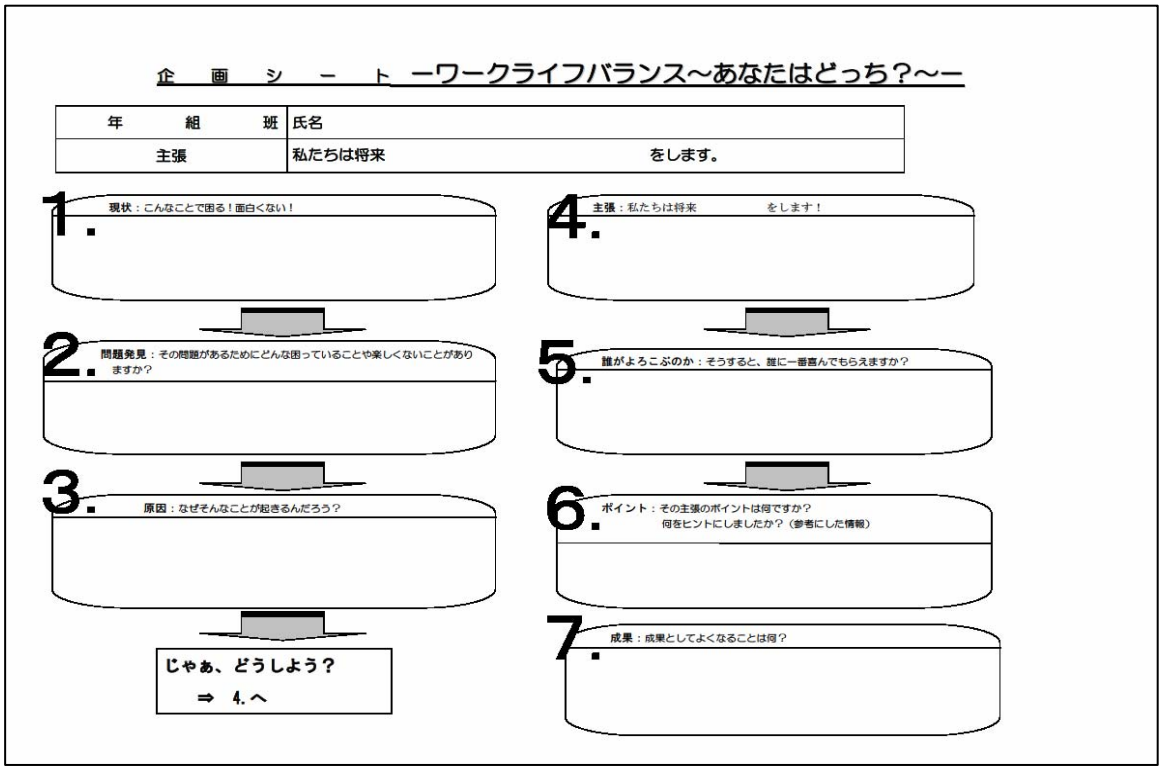
第3時間目	11月18日（木）	50分	*1年* 40名
段階	授業目的	つけたい力	
子どもが育つ環境の課題 社会全体での子育て	**【ワークライフバランスーあなたはどっち？ー】** ・　グループの意見をまとめる。 ・　発表する。	論理的思考力 伝える力	
授業内容	第１時間目 ・全体の目標 ”現代の親・子どもが育つ環境の課題から、ワークライフバランスについて考え、自分なりの答えを見つける” ①　課題を掴む（ビデオを見る） ②　児童虐待の原因、広く社会の環境について知る ③　グループで議論を行い、まとめ、伝える。 ・本日講座の目標 下記を意識して、この授業を取り組む ③グループで議論を行い、まとめ、伝える。 ≪伝えるときの注意点≫ 相手が納得できるようなプレゼンをめざす １）相手・・・先生・公開授業の方　等 ２）納得・・・現状分析（課題）からグループの意見をしっかり構築する。 ２．5名1グループとなる ３．グループで課題（今の社会の問題点等）の整理　20分 （何の課題からワークライフバランスを捉えるのか、自分たちは将来どうしていくのか）　　仕事か、家庭か？ ①課題②影響・結果③原因・背景・・・現状分析 ④提案・解決策・工夫　　・・・自分たちの意見 ４．グループで発表資料準備　　10分 ５．発表　16分（1グループ2分×8班） ６．コメント　4分（参加者のどなたか） 7. 振り返りシートに記入　5分		

＜ワークシート＞

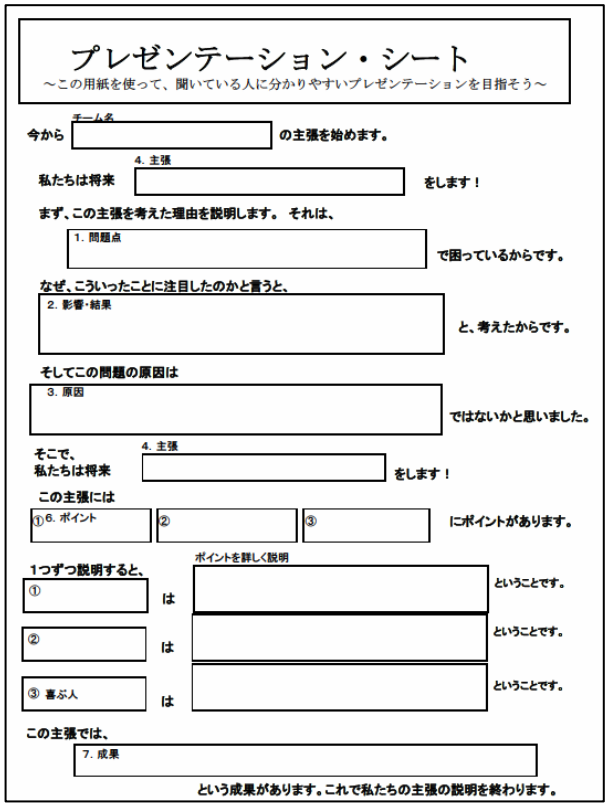
【宿題：ワークライフバランス調査分析シート】



【本時用：ワークライフバランス企画シート】



【本時用：ワークライフバランス発表シート】



プレゼンテーション・シート

～この用紙を使って、聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションを目指そう～

チーム名

今から　　の主張を始めます。

4. 主張

私たちは将来　　をします！

まず、この主張を考えた理由を説明します。 それは、

1. 問題点　　で困っているからです。

なぜ、こういったことに注目したのかと言うと、

2. 影響・結果　　と、考えたからです。

そしてこの問題の原因は

3. 原因　　ではないかと思いました。

そこで、

4. 主張

私たちは将来　　をします！

この主張には

①6. ポイント　②　③　にポイントがあります。

1つずつ説明すると、

ポイントを詳しく説明

①　は　　ということです。

②　は　　ということです。

③ 喜ぶ人　は　　ということです。

この主張では、

7. 成果

という成果があります。これで私たちの主張の説明を終わります。

③ 実際に実施したキャリア教育プログラム

１）提示されたキャリア教育プログラムの課題

「②実証研修におけるキャリア教育プログラムの提案」において提案されたキャリア教育プログラムは、社会的・職業的自立を目指した視点、および、宮田指導教諭が把握している学校現場の実態・ニーズに合わせてプログラムを改良することとした。具体的に学校現場において課題とされた点は下記の通りである。

＜提示された全体プログラムの課題＞

・公開授業のプログラム内容量が、**生徒の実態から考えると**非常に多い。

・全体プログラムに余裕を持てず実施すると、生徒が追い付かない。

＜提示された当日プログラムの課題＞

・１日１日に実施することを**もっと絞った方が良い**。

＜提示されたワークシートの課題＞

・ワークシートの項目が分かりにくく、**生徒が理解しにくい**ように思われる。

・ワークシートが**生徒の実態に合っていない**。

（例．宿題を出しても難しい場合がある、配布した紙の回収ポイント等）

２）実際に実施したキャリア教育プログラム

＜実際に実施した全体プログラム＞

日程	内容
11 月 15 日（月） （事前学習）	（授業実践：宮田）子育てを取り巻く環境とワーク・ライフ・バランス① （プリントＮｏ．29） ・ミッション提示　（プリントＮｏ．31）： 「ワーク・ライフ・バランスーあなたはどう思う？ー」 ・事前アンケート
11 月 18 日（木） ＜　本時　＞	（授業実践：宮田・大学生３名）子育てを取り巻く環境とワーク・ライフ・バランス② ・「ワーク・ライフ・バランス」授業の検証 3 クラス（公開授業 2 クラス） ・プレゼンテーション ・事後アンケート
11 月 22 日（月） （振り返り）	（授業実践：宮田）子育て支援のまとめ　（プリントＮｏ．30） ・ＶＴＲ「育ち　育てる　子育ての時間」視聴

＜実際に実施した当日プログラム＞

・事前学習

第１時間目	11 月 15 日（月）	50 分
段階	授業目的	つけたい力
子育てを取り巻く環境とワーク・ライフ・バランス①	**【子どもが育つ環境の課題・社会全体での子育て①】** ・　少子化対策、合計特殊出生率について知る。 ・　子どもを生み育てながら働くことについて想像する。	情報活用能力
授業内容	１．全体目標の確認（ミッション）　　５分 ・全体の目標 日本の少子化の現状について学び、子どもを生み育てやすい社会をめざして、その課題を見つける。 ④　日本の少子化の現状を知る ⑤　子育てをめぐる環境について、多くの課題があることを知る。 ⑥　「ワーク・ライフ・バランス」という考え方を知り、 （ア）　子育てしながら働くことの楽しさ （イ）　子育てしながら働くことのしんどさ （ウ）　なぜ働くのか？　について、個人で考える。 ＜本時の目標＞ 次時に向けて、予告する。 **指導ポイント①　最終的なイメージを膨らませる** 11 月 18 日（木）に「ワーク・ライフ・バランスーあなたはどう思う？ー」についてグループで議論をし、公開授業の中でグループの意見を発表してもらう。	

	２．日本の少子化の現状と子育てをめぐる環境について。 〔講義〕　30 分 ３．子育てしながら働くことについて考えてみよう。　10 分 ワークシートを用いて、 ・　子育てしながら働くことの楽しさ ・　子育てしながら働くことのしんどさ ・　なぜ働くのか？　について 個人で考えをまとめる。＜自分の考えをもつ＞ 次時にはグループで意見をまとめていくことを知る 【宿題】 ☆上記枠内の３つの項目について、身近な大人にインタビューしてみよう ４．事前アンケートへの記入　５分

・現場実証

内容：1 時間（50 分）の講座×３時間×３クラス（授業公開時間１時間）･･･本時第２時間目

日程：11 月 18 日（木）1 限・3 限・4 限

対象：大阪府立大和川高等学校　１年生 121 名（各クラス約 40 名×3 クラス）

補助学生：３名（大阪府立大学 3 名）

第２時間目	11 月 18 日（木）	50 分
段階	授業目的	つけたい力
子育てを取り巻く環境とワーク・ライフ・バランス②	**【ワーク・ライフ・バランスーあなたはどう思う？ー】** ・　グループの意見をまとめる。 ・　発表する。	論理的思考力 伝える力
授業内容	１．学生３名の紹介　　２分 ２．全体目標の確認（ミッション）　　５分 ・全体の目標 ”現代の親・子どもが育つ環境の課題から、「ワーク・ライフ・バランス」について考え、自分なりの答えを見つける”。 ④　課題を掴む ⑤　児童虐待の原因、広く社会の環境について知る ⑥　グループで議論を行い、まとめ、伝える。＜本時の目標＞ ≪伝えるときの注意点≫ 相手が納得できるようなプレゼンテーションをめざす ３）相手…クラスメイト・公開授業参観の方・授業担当者　等 ４）納得…現状分析（課題）からグループの意見をしっかり構築する。 **指導ポイント　キャリア教育の授業ルールの設定** １．１００％で意見を作ることを目指す ２．目標に向かって、時間を意識する ３．チームで協力しあう （誰か１人が欠けたら、グループの意見とは言わない）	

	３．4～6 名で１グループとなる（司会係・記録係・発表係を決める。）　２分 ４．グループで課題（今の社会の問題点等）の整理　　15 分 前時の「授業プリントＮｏ．31」、「宿題プリント」を用い、ＫＪ法でグループの意見を共有し、解決方法をまとめていく。 「ワークシート　その１・２・３」を利用。 ５．グループで発表資料準備　　５分 「プレゼンテーション・シート」を利用。 ６．発表　12 分（１グループ１分半×８班） ７．コメント（参加者より）　２分 ８．本時の振り返りシートに記入　５分 ９．まとめ（宮田より）　　２分

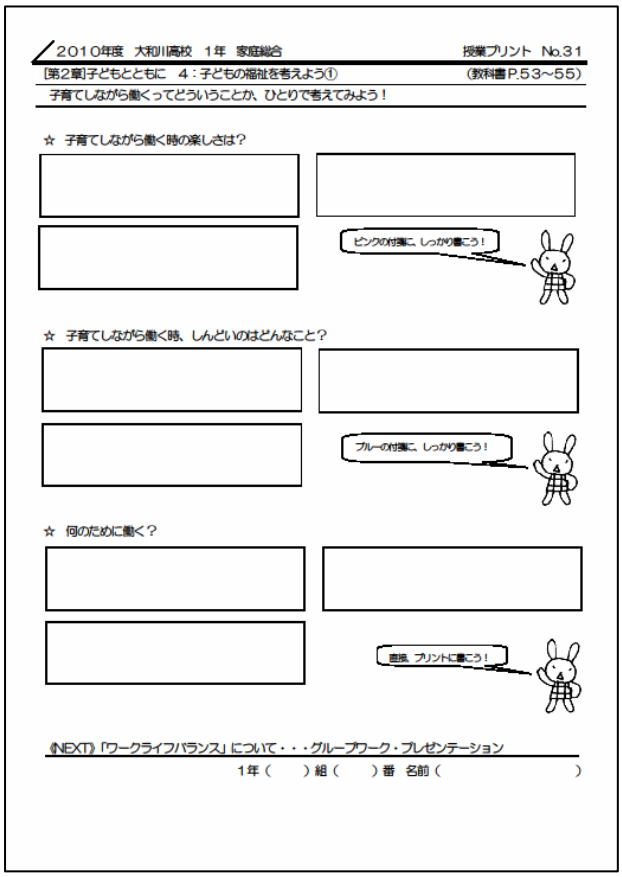
・振り返り

第３時間目	11 月 22 日（月）	50 分
段階	授業目的	つけたい力
子育て支援のまとめ	**【子どもを生み育てやすい社会をめざして】** ・　子どもを生み育てやすい社会をめざした、さまざまな取組について知る。 ・　自分自身の近い将来像を思い描く。	論理的思考力、判断力 伝える力
授業内容	１．全体目標の確認（ミッション）　　５分 ・全体の目標 ①　子育てをめぐる環境には多くの課題があるが、その解決に向けて、個人や家庭での取組とともに、国や自治体による支援、地域や職場、仲間同士の助け合いなど、社会全体で子育てしやすい環境を整えることが大切であることを理解する。 ② 自分自身の将来を展望して、ワーク・ライフ・バランスをどのようにしていきたいか、自分の考えをまとめる。 ２．ＶＴＲの視聴 30 分 （ＶＴＲのキーワード） 「子育てはひとりで背負わないで」 「子どもの気持ちを知りたい」 「子どもと向き合って」 「子育て仲間を見つけよう」 「親も共に成長していく」 感想の記入	

	３．ワーク・ライフ・バランス（＝仕事の生活の調和）について、考える　10分 ・　自分は将来どのようにしていきたいですか？ ・　その理由は？ ４．事後アンケートへの記入　５分

＜実際に実施したワークシート＞

【事前学習：ワークシート（個人ワーク）】



2010年度　大和川高校　1年　家庭総合　　授業プリント　No.31

[第2章]子どもとともに　4：子どもの福祉を考えよう①　　（教科書P.53～55）

子育てしながら働くってどういうことか、ひとりで考えてみよう！

☆ 子育てしながら働く時の楽しさは？

ピンクの付箋に、しっかり書こう！

☆ 子育てしながら働く時、しんどいのはどんなこと？

ブルーの付箋に、しっかり書こう！

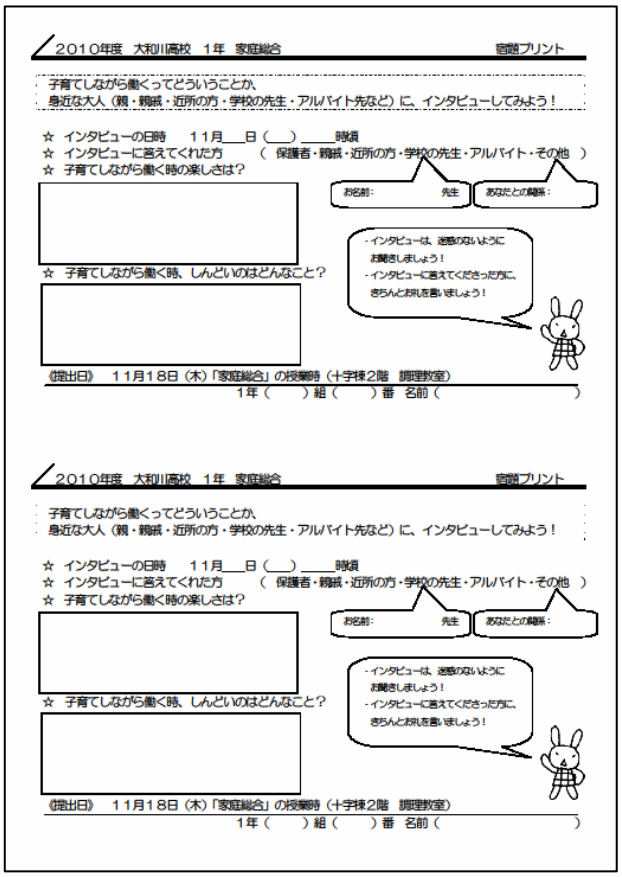
☆ 何のために働く？

直接、プリントに書こう！

《NEXT》「ワークライフバランス」について・・・グループワーク・プレゼンテーション

1年（　　）組（　　）番　名前（　　）

【宿題：インタビュー】



2010年度　大和川高校　1年　家庭総合　　宿題プリント

子育てしながら働くってどういうことか、
身近な大人（親・親戚・近所の方・学校の先生・アルバイト先など）に、インタビューしてみよう！

☆ インタビューの日時　　11月___日（___）_____時頃
☆ インタビューに答えてくれた方　（ 保護者・親戚・近所の方・学校の先生・アルバイト・その他 ）
☆ 子育てしながら働く時の楽しさは？

お名前：　　先生　　あなたとの関係：

・インタビューは、迷惑のないようにお聞きしましょう！
・インタビューに答えてくださった方に、きちんとお礼を言いましょう！

☆ 子育てしながら働く時、しんどいのはどんなこと？

《提出日》　11月18日（木）「家庭総合」の授業時（十字棟2階　調理教室）

1年（　　）組（　　）番　名前（　　）

2010年度　大和川高校　1年　家庭総合　　宿題プリント

子育てしながら働くってどういうことか、
身近な大人（親・親戚・近所の方・学校の先生・アルバイト先など）に、インタビューしてみよう！

☆ インタビューの日時　　11月___日（___）_____時頃
☆ インタビューに答えてくれた方　（ 保護者・親戚・近所の方・学校の先生・アルバイト・その他 ）
☆ 子育てしながら働く時の楽しさは？

お名前：　　先生　　あなたとの関係：

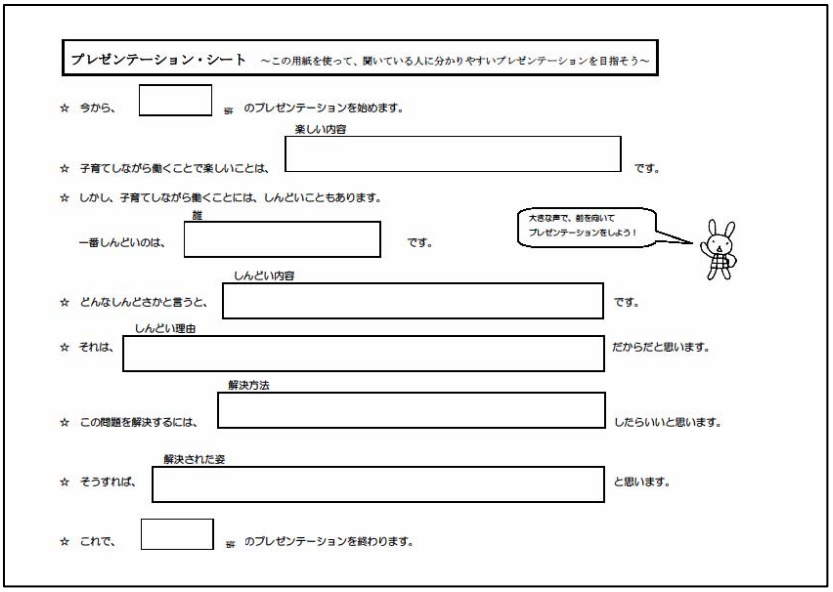
・インタビューは、迷惑のないようにお聞きしましょう！
・インタビューに答えてくださった方に、きちんとお礼を言いましょう！

☆ 子育てしながら働く時、しんどいのはどんなこと？

《提出日》　11月18日（木）「家庭総合」の授業時（十字棟2階　調理教室）

1年（　　）組（　　）番　名前（　　）

【本時：プレゼンシート】



プレゼンテーション・シート　～この用紙を使って、聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションを目指そう～

☆ 今から、［　　］番　のプレゼンテーションを始めます。

☆ 子育てしながら働くことで楽しいことは、［楽しい内容　　］です。

☆ しかし、子育てしながら働くことには、しんどいこともあります。

一番しんどいのは、［誰　　］です。

大きな声で、前を向いてプレゼンテーションをしよう！

☆ どんなしんどさかと言うと、［しんどい内容　　］です。

☆ それは、［しんどい理由　　］だからだと思います。

☆ この問題を解決するには、［解決方法　　］したらいいと思います。

☆ そうすれば、［解決された姿　　］と思います。

☆ これで、［　　］番　のプレゼンテーションを終わります。

（２）効果測定

①　南大阪地域大学コンソーシアムの効果測定システムによる効果の測定

「人間基礎力」の測定指標を活用した効果測定では、培われた能力について測定し、その効果によって本教育プログラムの有効性について検証した。本指標は、平成 17 年度から平成 19 年度にかけて南大阪地域大学コンソーシアムが堺市で実施した経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育～ものづくりのまち堺から発信する「こんなモノ欲しかってん！」事業のなかで設置された「キャリア教育プロジェクト研究会」で策定されたものである。以下は、「キャリア教育プログラムの効果測定」『キャリア教育プロジェクト研究会報告書 Education for the future』（西道実（プール学院大学教授）、2007 年、南大阪地域大学コンソーシアム発行）から抜粋し、要約した。

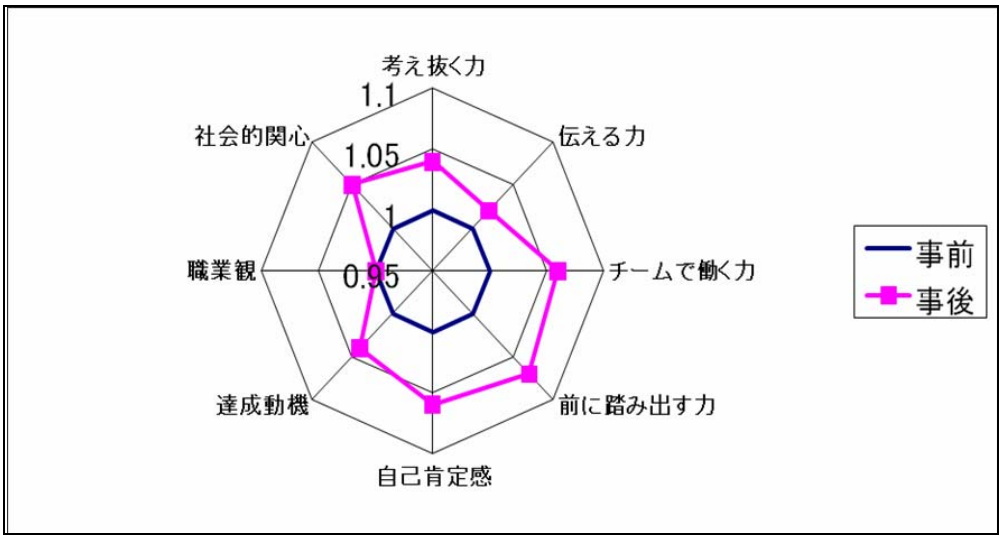
効果測定の指標は、文部科学省の提言に示された４領域８能力（表１）、経済産業省の提案する 12 の「社会人基礎力」（表２）、さらにＰＩＳＡ（Programme for International Student Assessment)型のリテラシー（ＯＥＣＤが提言する数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力、問題解決能力の４つ）やこれまでのキャリア教育の実践経験の中で経験的に見出されたさまざまな能力に関する評価の指標を同列に並べ、それぞれの能力に関する概念的定義を比較検討しながら、重複を避け、かつ、できる限り育成を意図する「人間基礎力」を網羅的に扱うことができるよう、８つの項目に集約し整理している。その８つの項目とは、「考え抜く力」「伝える力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」「達成動機」「職業観」「自己肯定観」「社会的関心」である。

本指標は平成 19 年度に作成されたものであるため、文部科学省キャリア教育職業教育特別部会答申における「基礎的・汎用的能力」との関係はとくに考慮されていない。しかしながら、本指標が測定する「人間基礎力」とは、「生涯にわたる変化の過程で、人が環境に適応するために必要とする」能力を意図しており、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」を意図する「基礎的・汎用的能力」とは類似している。具体的な能力指標を見てみると、例えば、「人間基礎力」における「考え抜く力」、「伝える力」は「基礎的・汎用的能力」における「課題対応力」に関連していると考えられる。同様に、「チームで働く力」、「社会的関心」は「人間関係形成・社会形成能力」に、「自己肯定感」、「職業観」は「自己理解・自己管理能力」、「キャリアプランニング能力」に関連していると考えられる（「職業観」の価値観に関する部分は、「基礎的・汎用的能力」以外に能力が定められている）。

上記の効果測定指標を用いて、今回現場実証を行った大阪府立大和川高等学校において、授業を開始する前（事前）と授業が終わった後（事後）に受講生徒を対象としたアンケートを取った。実施３クラスの効果測定の結果を下記の通り報告する。

	考え抜く力	伝える力	チームで働く力	前に踏み出す力	自己肯定感	達成動機	職業観	社会的関心
事前	2.51	2.46	2.66	2.51	2.39	3.00	3.03	2.64
事後	2.61	2.51	2.82	2.68	2.54	3.11	3.04	2.76

	考え抜く力	伝える力	チームで働く力	前に踏み出す力	自己肯定感	達成動機	職業観	社会的関心
事前	1	1	1	1	1	1	1	1
事後	1.04	1.02	1.06	1.07	1.06	1.04	1.00	1.05



(n=135)

上記効果測定の結果からの分析は以下である。

・授業回数３回と比較的短期間の測定であったため、受講生徒の意識の変容は 1.05 から 1.1 の間であり、わずかである。

・職業観以外のすべての項目が事前から事後にかけて微動している。

・チームで働く力、前に踏み出す力の推移が本プログラムの効果としてとくに大きかったことがわかる。

② ワークシートに生徒が記述した項目

事後学習時に使用したワークシートに生徒が記述した項目の結果によって、今回の学習が生徒にとってどのような効果をもたらしたかを分析する。

(a) 生徒からの感想

・子育てと家事の両立ってとても大変だなぁと思いました。大変そうだけど旦那さんと周りの人と

かに頼れる環境を作ったらいいなと思いました。
・子育ては楽しいが、仕事との両立にはいろんな大変さがあることが分かった。特に大変な親は子どもの成長が実感できるが、仕事から帰ってきての子育ては精神的にも身体的にも辛いことがわかった。
・子育てでしんどいのは、母親が一番だと思いました。しんどい時に、父親や周りの人に助けを求めることも大切なことだなと思いました。育児休暇なども必要なことだなと思いました。
・子育てしながら仕事はとても大変だけれど、周りの人の助けなどで楽しく子育てできると思った。ためになった。
・子どもを育てるには、たくさんの人の協力などが必要だと思いました。今思うとお母さんは本当にすごいんだと思いました。
・ワークライフバランスを学んで感じたことは、子どもを育てるということは、そんな簡単なことじゃないんだと思った。
・やっぱり、子育てをする中で一番しんどいのは「親」「母親」という意見が多かった。子育てをする楽しみは、こどもの成長を見ることができるということで、その通りだと思います。
・自分が仕事が忙しくて子どもの面倒を見られない場合、祖父母だけを頼るのではなく、近所の仲のいい人に面倒を見てもらうのもいい提案だと思いました。
・子育てと家事の両立ってとても大変だなぁと思いました。大変そうだけど旦那さんと周りの人とかに頼れる環境を作ったらいいなと思いました。
・子育ては楽しいが、仕事との両立にはいろんな大変さがあることが分かった。特に大変な親は子どもの成長が実感できるが、仕事から帰ってきての子育ては精神的にも身体的にも辛いことがわかった。
・子育てでしんどいのは、母親が一番だと思いました。しんどい時に、父親や周りの人に助けを求めることも大切なことだなと思いました。育児休暇なども必要なことだなと思いました。
・子育てしながら仕事はとても大変だけれど、周りの人の助けなどで楽しく子育てできると思った。ためになった。
・子どもを育てるには、たくさんの人の協力などが必要だと思いました。今思うとお母さんは本当にすごいんだと思いました。
・ワークライフバランスを学んで感じたことは、子どもを育てるということは、そんな簡単なことじゃないんだと思った。
・やっぱり、子育てをする中で一番しんどいのは「親」「母親」という意見が多かった。子育てをする楽しみは、こどもの成長を見ることができるということで、その通りだと思います。
・自分が仕事が忙しくて子どもの面倒を見られない場合、祖父母だけを頼るのではなく、近所の仲のいい人に面倒を見てもらうのもいい提案だと思いました。

(b) グループワークについての感想

・両親が協力して子育てすることが大切。グループワークもグループで協力することが大切。
・子育ての楽しさやしんどさの意見は一人一人違うけど、まとめてみるとほとんど一緒だということ。良い意見がいろいろでました。
・皆、夫婦間のことや近所の付き合いのことを言っていたと思います。一番しんどいのはだれか？というところで、グループごとに少し違う意見があって面白かったです。
・だいたいの人が考えていることが一緒ということがわかりました。やっぱり子どもの笑顔で家族が支えられているんだなーと感じました。周りの人の協力が一番大切だと思いました。
・他の人の意見が自分と少し違う所もあって、本当にいい経験になったと思います。またこのようなことをぜひしたいです。
・両親が働いていたら世話をするのがとても大変だとわかった。ほかの発表を聞いてもみんな思っていることや感じていることは同じだと知った。
・自分で思いつかない意見を聞けてよかった。納得させられる事が多かった。皆の意見を通してやっぱり家庭と仕事の両立は難しいと思った。

(c)プレゼンテーション資料より

（A 班）
子育てしながら働くことで楽しいことは、子どもの成長が見れる、わかることです。しかし子育てしながら働くことには、しんどいこともあります。一番しんどいのは親です。どんなしんどさかというと　子育てと仕事の両立が大変なことです。それは、仕事で疲れているのに、家に帰れば子どもの相手をしなければならないからだと思います。この問題を解決するには家族同士が協力　したらいいと思います。そうすれば子育てと仕事の両立でのしんどさが多少ラクになると思います。

（B 班）
子育てしながら働くことで楽しいことは、子どものために頑張って働こうと思うことです。しかし子育てしながら働くことには、しんどいこともあります。一番しんどいのは親です。どんなしんどさかというと子育てと仕事の両立です。それは、こどもが病気などをしたときに休んだりすることができないからだと思います。この問題を解決するには親や近所の人を頼ったりする。そのために交流を深めたりしたらいいと思います。そうすれば、困ったときにお互いが助け合ったりできると思います。

（C 班）
子育てしながら働くことで楽しいことは、子どもの成長を見ることで、心身ともに癒してくれることです。しかし子育てしながら働くことには、しんどいこともあります。一番しんどいのは親です。どんなしんどさかというと子育てをしている人が全部抱え込むことです。それは、協力してくれる人が少なく、悩みを聞いてくれる人が少ないからだと思います。この問題を解決するには夫婦で協力して周りの人もサポートをしたらいいと思います。そうすればみんなが大変な中で、楽な時間も増えて、ストレスが減り、笑顔が増えると思います。

上記を分析すると、以下の点が指摘できる。

・多くの生徒が「子どもを育てることが大変である」と実感している。

・しんどいのは「母親」と「親」というのが大半だった。仕事と子育ての両立には、周りの協力が不可欠だということに皆が気づき、納得したようである。

・グループごとで異なる意見を出し合ったことで、グループで協力する大切さに気づいた生徒がいる。

（３）学生サポーターの授業参加

本実証研修の企画・実施等に際しては、府立大学生等をサポーターとして参画させて、学士課程段階におけるキャリア教育プログラムの一環とするとともに、初等中等教育でのキャリア教育に対するサポーター養成研修として実施した。実施にあたっては本学だけでなく、「コンソーシアム」がこれまで開発したキャリア教育プログラムに関するノウハウを活用した。

≪参加学生≫

大阪府立大学に所属する学生３名（人間社会学部２名・経済学部１名）

※　当日は１名のみ授業協力

≪スケジュール≫

期　　日	内　　容
9 月中旬 ～10 月中旬	・プロジェクト参加学生（サポーター）の募集 ・プロジェクト参加学生の研修
10 月下旬	・担当教諭とのプログラム打合せ （本学、大阪府教育センター、「コンソーシアム」、学生） ・実施するキャリア教育プログラムの決定

≪研修内容≫

時間(分)	講　座	内　容
10	オリエンテーション	・　研修の目的と流れ
15	本プロジェクトの概要説明（ミッション）	・　本プロジェクトの目的 ・　プロジェクトの概要
	キャリア教育概論	・　背景・目的・キャリア教育コーディネータの役割
15	役割説明	・　学校の現状、関係者の役割
		・　皆さんがこれからすること
5	全体スケジュール	・　スケジュール ・　学校の流れ
10	プログラム説明	・　コンソーシアムのプログラム説明 ・　使用するワークシートの意味
75	プログラム演習 ★シミュレーション①	

≪学生の声≫

・私は今就活生ですが、何かを深く考える重要性を日々感じています。私が高校生のときに、「ワークライフバランス」について深く考える、こんな授業があれば良かったです。この授業に参加できて、本当に良かったです（研修会における感想より）。

Ⅲ　連携による研修についての考察

１　連携の成果（メリット）と課題

（連携により得られるメリット）

① 全国の大学や初等中等教育に携わる教員、教育委員会などに対し、大学の有する専門性やリソースを活用した本研修プログラムや成果を、ｅラーニングシステムを活用して情報発信していくことで、広く成果を共有できた。

② 本事業で作成する本研修の研究収録を各校に配付するとともに、大阪府立大学及び大阪府教育センターのWeb上で公開することで、広く成果を共有できた。

③ キャリア教育指導者養成研修の受講者を活用することで、本研修成果の学校現場及び地域への波及を促すことができた。研修終了後の現場実習の在り方に関して、より有意義なものを追求していき、初等中等教育と高等教育までをつなぐ体系的・総合的なキャリア教育プログラムづくりについて連携し進めていく。

④ 本学の学生の総合的な「生きる力」をはぐくむために必要な学士課程段階でのキャリア教育プログラムについて、大阪府教育センターや「コンソーシアム」と連携して作成することができた。

⑤ 「基礎的・汎用的能力」などについて、「コンソーシアム」の検証システムを活用することで、研修効果の測定を行うことができた。今後も、キャリア教育の効果測定を継続していくとともに、検証システムの改善に努める。

⑥ 大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員等近畿経済産業局及び大阪商工会議所、教員等によって構成される連携協議会を設置したことで、次年度以降に向けての研修の評価及び改善を行うことができた。

（作成教材等）

① 平成 22 年度初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修プログラムの開発－社会的自立・職業的自立に必要な基盤能力の育成のために－のホームページ作成

Ｗｅｂページアドレス　http://www.osaka-unicon.org/career_leader/

② ｅ－ラーニング・コンテンツの作成

③ 研修全体及び実証検証のＤＶＤ教材の作成

④ 演習用資料の作成

⑤ 研修の報告書の作成

⑥ リーフレットの作成

（今後の課題）

① ｅラーニング等、本学の有する専門性・リソースを初等中等教育に提供するための方策について、今後も大阪府教育センターと継続的に研究していく。しかし今回の事業は単年度の取組であるため、Ｗｅｂ上に公開したｅ－ラーニングコンテンツの維持管理やシステムの改善に伴う費用の確保が課題である。

２　地域協議会からの提言－研修の評価及び改善

（１）キャリア教育を推進するために必要な環境整備について

〇キャリア教育に対する教職員の意識にばらつきが見られる。

〇キャリア教育の意義や必要性などが学校全体で十分に理解されていない現実があり、キャリア教育担当者だけでは進めにくい現状がある。

〇教職員の意識改革が必要である。

⇒　□　学校の教育活動全体でキャリア教育を推進ための環境整備

・校務分掌等で担当者の役割を明確化、校内組織の整備

・職員研修のサポート、ワークショッププログラム・ワークシート等の紹介

⇒　□キャリア教育コーディネーターの育成とネットワーク化

・各校及び市町村教育委員会の協力が必要

〇できるだけ学校現場で使いやすい教材、授業方法を研修に取り入れていく必要がある。

⇒　□　日常の教育活動の中で、具体に実践できる力を高める研修の充実

・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等をキャリア教育の視点で関連づけた内容の取り入れ

・各校種ごとに特色ある先進事例や工夫が施された実践事例を収集、紹介

・キャリア教育の全体計画、単元の指導計画、学習指導案、ワークシート等の提供

〇基礎的・汎用的能力が示された経緯を踏まえて、今後どのようにして社会人基礎力で求められている能力や資質を学校におけるキャリア教育に取り入れていくかについても考えていく必要がある。

〇単年度の事業として、このまま終了するのはもったいない。

⇒　□　初等中等教育から高等教育までを見通したキャリア教育を総合的に推進していくための連携の環境・体制づくりが必要

・ＮＰＯ法人、産業界、大学等との連携の継続

・素材の提供、マッチング、相談窓口等の役割を果たす学校やキャリア教育担当者を支援するシステムづくり

Ⅳ　その他

・大阪府教育センター、「コンソーシアム」、近畿経済産業局及び大阪商工会議所、大阪キャリア教育支援拠点運営協議会、教員等近畿経済産業局及び大阪商工会議所、教員等の関係者には、本研修で多方面でご協力いただいた。

・次年度は、今回作成したｅ－ラーニングコンテンツを活用しながら、大阪府教育センターで、本研修を引き続き実施していく予定である。

Ⅴ　参考資料

１　地域協議会設置要綱

平成 22 年度「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会設置要綱

１　本会は「『初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修』に係る地域協議会」と称する。

２　目的

本会は、大阪府立大学が大阪府教育センターと連携して実施する平成 22 年度「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修」が、独立行政法人教員研修センターの平成 22 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムに採択されたことをうけて、本研修の実施及び改善に関する指導・助言、提言を行うことを目的とする。

３　構成員

本会は、大阪府内におけるキャリア教育の研究に従事するものをもって組織する。

委員は大阪府立大学長が委嘱するものとし、任期は１年とする。

４　会長及び副会長

本会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

５　会議の招集

本会の会議は、必要に応じ、大阪府立大学長が招集し、年に２回程度開催する。

６　事務局

本会の事務局は、大阪府立大学に置き、大阪府教育センター教育課程開発部カリキュラム研究室とともに運営を行う。

（附則）この要綱は、平成 22 年４月１日より施行する。

（地域協議会構成員）

	所　属	職　名	氏　名	備　考
委員	追手門学院大学	教授	三川　俊樹	
	大阪商工会議所	人材開発部課長	廣田　雅美	
	大阪キャリア教育支援拠点運営協議会	事務局長	吉田　聡	
	近畿経済産業局	地域経済部 産業人材政策課長	内海　美保	
	南大阪地域大学コンソーシアム	コーディネーター	難波　美都里	副会長
	南大阪地域大学コンソーシアム	研究員	黒木　淳	
	府立枚方なぎさ高等学校	指導教諭	櫻井　佳子	
	府立佐野高等学校	指導教諭	奥野　周司	
	大阪府教育センター	教育課程開発部長	清水　隆	
	大阪府立大学	総合教育研究機構　教授	真嶋　由貴恵	会長
事務局	大阪府立大学	総合教育研究機構室　室長	萬玉　富晴	事務局長
	大阪府立大学	総合教育研究機構室　主事	森　純一	事務局
	大阪府立大学	総合教育研究機構室	應治　孝代	事務局
	大阪府教育センター	カリキュラム研究室　室長	松本　透	事務局 （連携先）
	大阪府教育センター	首席指導主事	森　哲仁	事務局 （連携先）
	大阪府教育センター	主任指導主事	吉野谷　成史	事務局 （連携先）
	大阪府教育センター	指導主事	岡本　真澄	事務局 （連携先）

２　地域協議会の記録

（１）第１回平成 22 年度「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会

①日時：平成22年５月21日（金）16:00～

②場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパスＢ３棟106号室

③会議の内容

〇「平成22年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」及び「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム実施計画書」についての説明（事務局）

〇地域協議会設置要綱に基づいて、会長及び副会長を選出

〇平成21年度事業報告（事務局）

〇平成22年度小・中・高等学校「キャリア教育指導者養成」研修について（事務局）

・今年度の研修のねらい及び特徴、研修の実施日程及び内容、実証研修の実施協力校、開発したプログラムの活用方法

〇今年度の研修実施に当たり、委員から出された主な意見

（研修プログラムの評価に関すること）

・ 生徒を多面的に見る、テストでは掴めない力を測る方法について研究して欲しい。

・ マスの効果測定とともに、生徒一人ひとりの成長を測る個人の変容を測る効果測定を実施して欲しい。その際、効果測定の基準作成に当たっては、企業が採用の際に用いているものなども参考にしてはどうか。

・ 個人の行動変容を測る際には、到達点（＝ねばならない）ではなく、その生徒の伸びしろが測れる方法の開発が必要である。大学の先進事例の中に、自己評価や他己評価を取り入れた取組がある。リサーチが必要である。

・ 企業の人材育成の手法の中には、生徒個々人の成長を見守っていく方法として、学校に取り入れることができるものがある。例えば、個人面談を定期的に行い、教師が子どもと向き合うことで、個人が設定した目標にどこまで到達できたかを話し合ったり、本人が気付いていないことへの気付きを促すなどである。

・ 10年前から、ポートフォリオ評価に取り組んできたが、総合的な学習の時間に携わる全ての教員の覚悟と意気込み、Ｔ・Ｔができるような組織化が必要である。

（今年度の研修で大切にしたいこと）

・ 「初等中等教育から高等教育までをつなぐキャリア教育」を、今回の研修の中でぜひ進めて欲しい。小・中・高等学校のキャリア教育の上に、大学でもさらにキャリア教育を積み重ねていく視点は、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会の『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）』でも示されている大切な視点である。

・ 小・中・高等学校の授業に教育サポーターとして関わった学生たちは、教員志望であるかどうかにかかわらず、その後大きく成長している。今回の研修にサポーターとして関与することそのものが、大学生のキャリア発達を促す

・大学の講義を受けている学生の多くは、まだ将来を決めていない。今回、サポーターとして関わることで、「将来何をしたいのか」「社会のために何がしたいのか（何ができるのか）」考えるきっかけを掴んで欲しい。

・ 昨年度の実証研修の反省から、授業を行う教師と大学生が話し合う場をセッティングするなど、大学生サポーターへの事前学習をもう少し丁寧にすべきである。何をしてよいかわからない大学生もおり、動き方にも個人差があった。

・今年の研修の初回に行うシンポジウムでは、「企業が、なぜキャリア教育に取組むのか」、「学校で学んでいる時に、企業はどんな能力を子どもたちに育んでおいてもらいたいのか」、企業の立場から参加されるパネリストに話してもらいたい。

（２）第２回平成 22 年度「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会

①日時：平成22年11月18日(木)13：15～

②場所：大阪府立大和川高等学校

③会議の内容

〇公開授業の振り返り

・「ワーク・ライフ・バランスーあなたはどう思う？ー」というテーマはとても身近な内容であり、日常の生活を透かしながら、生徒たちは素直に自然に話し合っていた。「どうやって働いていこう」「どうやって子どもを育てよう」「どうやって生きていこう」という近い将来、社会に出た時に必要なことをテーマに挙げられてよかった。このような身近なことをひとつひとつ考えていくプロセスを経て、人は自分を形づくっていくのではないか。

・人の話を聴き、自分たちが発表する（自分の意見や考えを伝える）、その相互作用の中でそれぞれが気付いていくプロセスそのものがキャリア教育である。

・人と意見交換することで考えが深まることを、授業の初めに本時のねらいとして生徒にしっかりと伝えて欲しい。

・ある方向にまとめていくに当たって、今回授業で取り入れていた、付箋を用いてグルーピングしながら意見をまとめていく手法は､企業では普通にやっていることであり、学校段階のどこかで経験する必要がある。

・生徒はプレゼンの内容をよく書けていた。今後は、発表のしかた、集中して人の発表を聴く工夫、生徒から出た意見や考えを「見える化」するなどさらに指導に工夫を重ねて欲しい。

・今日の授業の中には、グループ学習を成立させるためのいくつかの仕掛けがあった。

まとめのプリントに「文章化」させ、思考のパターン（型）を「見える化」しているのがよかった。

・参加型のような自由な形態の授業では、「型」にはめることが大切である。いくつかのワークシートが機能的に働いていた。

・法制度との関連など、「現代社会」など他教科との連携を図ることでさらに社会的な側面への視野が開ける。

・今回作成した課題解決型学習のプロットが、他の学校でどこまで応用可能なのか。おそらくそれぞれの学校の実態に応じて、変化させていく必要があり、その変化をさせていくポイント（ワークシートの工夫、問いの設定のしかた等）こそを、しっかりと他の先生方にお伝えしなければならない。

（３）第３回平成 22 年度「初等中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修」に係る地域協議会

①日時：平成23年１月21日（金）14:00～

②場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス　Ｂ３棟106号室

③会議の内容

〇平成 22 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラムについて（事務局）

・中間報告資料について

・「キャリア教育指導者養成研修」受講者の評価及び感想について

・現場での実証研修について

〇本研修プログラム全体に関する総括及び次年度へ向けての提言として、委員から出された主な意見

・キャリア教育に対する教職員の意識にばらつきが見られる。

・キャリア教育の意義や必要性などが学校全体で十分に理解されていない現実があり、キャリア教育担当者だけでは進めにくい現状がある。

・教職員の意識改革が必要である。

・インターネット等による情報提供は、積極的な意思をもってアクセスする方にしか届かない場合がある。e-ラーニングを活用して行う研修、従来の対面で行う研修のそれぞれの特徴を活かして次年度の研修を進めてもらいたい。

・できるだけ学校現場で使いやすい教材、授業方法を研修に取り入れていく必要がある。

・基礎的・汎用的能力が示された経緯を踏まえて、今後どのようにして社会人基礎力で求められている能力や資質を学校におけるキャリア教育に取り入れていくかについても考えていく必要がある。

・研修受講者のその後の追跡調査をていねいに行っていただきたい。研修の成果が先生方の中にどのように落とし込まれ、学校現場で反映されているのかを知りたい。

・単年度の事業として、このまま終了するのはもったいない。「キャリア教育指導者養成」

研修の実施とともに深めてきた「人・もの・こと」の関係性を今後も、どのようにしてつなげていくことができるのか。どこがイニシアチブをとればいいのか。

３　連携協議会の記録

本プログラムを円滑に運営・遂行していくために、連携先である大阪府教育センターをはじめ各関係機関（「コンソーシアム」や実証研修実施校等）とともに、７回の連携協議会を開催した。

（連携先との協議会（打ち合せ）の実施状況）

・H22.　４月	（１回）	第１回連携協議会（研修内容全般の打ち合わせ）
・H22.　５月	（１回）	第１回地域協議会（研修内容の説明及び研修内容に関する意見交換）
・H22.　６月	（１回）	第２回連携協議会（第１回の研修内容に関する打ち合わせ）
・H22.　７月	（１回）	第３回連携協議会（第１回～第５回の研修内容及びモデルカリキュラム開発プログラムに関する打ち合わせ）
・H22.　10 月	（２回）	第４回連携協議会（現場における実証検証に関する打ち合わせ） 第５回連携協議会（現場における実証検証に関する、実践校との打ち合わせ）
・H22.　11 月	（３回）	第６回連携協議会（ｅ－ラーニングコンテンツ作成に関する打ち合わせ） 第２回地域協議会（現場における実証検証の振り返り） 第７回連携協議会（報告書作成に関する情報交換）
・H23.　１月	（１回）	第３回地域協議会（本研修プログラム全体に関する総括及び次年度へ向けての提言）

Ⅵ　「キーワード」「人数規模」「研修日数（回数）」

（１）　キーワード

「キャリア教育」「地域連携」「異校種間の連携」「コーディネーター」「効果測定」「思考リテラシー」

（２）　人数　Ｃ（34名）

（３）　研修日数　Ｃ（５回）

【問い合わせ先】

（奥づけ）

大阪府立大学
総合教育研究機構
〒599-8531　大阪府堺市中区学園町1番1号
TEL：072-252-1161(代)／FAX　072-254-8421

大阪府教育センター
教育課程開発部　カリキュラム研究室
〒558-0011　大阪市住吉区苅田4-13-23
TEL　06-6692-1882／FAX　06-6692-1898